

お知らせとお願い

研究課題「前置胎盤における分娩時出血予測因子の検討」

防衛医科大学校産科講座では年に数十件の前置胎盤の妊婦さんのお産をお引き受けしています。前置胎盤とは、子宮の出口付近に胎盤がついてしまうことを言います。赤ちゃんが出てくる通路に血管の塊である胎盤が位置していることによって、通常のお産の方法では確実の大出血をもたらす命の危険があるため、帝王切開でお産をするのが原則です。前置胎盤の中には数パーセントの割合で「癒着胎盤」という疾患がみつかります。これは、胎盤が子宮の壁に食い込んでしまい、通常ならばお産の後に自然にはがれるはずの胎盤はがれなくなってしまい、大出血を引き起こす原因となります。しかし、癒着胎盤でない場合でも、出血量の個人差が大きく、その予測は難しいとされています。

前置胎盤と診断された場合、ご自分の血液をためておいて大出血に備える自己血貯血を行います。自己血のみでは不足に輸血をする場合もあります。大出血がおこる可能性がある程度推定できれば自己血の準備や輸血の準備がよりスムーズに行えるはずです。

防衛医科大学校産科講座では、前置胎盤と診断された妊婦さんに対し癒着胎盤の可能性を探るためお産前にMRI検査を行っています。MRI検査では癒着胎盤の可能性とともに、胎盤全体のかたちや、胎盤に行く血管、胎盤の大きさなどを推定することができます。

本研究ではこれまでに前置胎盤と診断され、MRIを撮影した方のお産の情報、MRIの画像からデータを収集、それを分析することにより大出血を引き起こす原因を解明しようという計画です。対象となる方は平成12年1月から平成24年1月までの間に防衛医科大学校病院産科で前置胎盤と診断され、お産を行われた方です。

本研究においては追加でお願いする検査はありません。分娩記録やMRIなど、既存の医療記録を用いますので、対象となる方に研究参加の依頼をすることはありません。

本研究では、個人が特定される情報をいただくことはなく、通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。研究結果をまとめて専門の学会や学術雑誌に発表することがありますが、個人を特定されることはありません。平成12年1月から平成24年1月までの間に防衛医科大学校病院で前置胎盤との診断を受けた方で、ご自身の臨床データを研究に使わないでほしい、というご希望がある方は、下記連絡先までご連絡いただけますようお願いいたします。個人情報の保護については、防衛医科大学校個人情報管理者の指導の下で、産科婦人科助教 佐々木 直樹が厳重に管理等を行います。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院における診療にはまったく何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

連絡先：防衛医科大学校産科婦人科講座

古谷 健一

04-2995-1211